

2022年10月11日 第152回運輸政策コロキウム(藤巻主任研究員)

奥田専務 閉会挨拶

紹介ありました、専務理事・ワシントン国際問題研究所長の奥田でございます。本日、運輸政策コロキウム・ワシントンレポートを開催致しましたところ、大変多くの方にご視聴頂きましてありがとうございました。

今回は、冒頭会長から紹介がありましたけれども、昨年9月21日に藤巻主任研究員が発表いたしました第143回運輸政策コロキウムの続編でございます。昨年の発表では、目視外の運航について、制度改正を検討する有識者委員会が設置されたところまでご報告いたしましたけれども、今回は、その後の委員会における検討の結果、機体が一定の性能を満たしていることを証明すれば、運航毎に個別手続を行わなくとも、目視外飛行が認められるとともに、一般の有人機より手続が簡素化されること、また、目視外の運航が今後一般化していくことに伴いまして、これまで禁止されていた、操縦者が複数の無人航空機を操縦することを解禁すること、さらに、将来的には、目視外の運航が一般化して、多数の無人航空機が広範囲を飛行することに伴いまして、有人機と無人機が空域を共有するニーズが高まるため、両者の間での位置や速度等の情報を共有する民間のサービスを導入する制度が創設されることなどについて、必要な対応が行われる方針となったことについて、報告がありました。

続きまして、本日、コメンテーターとしてお務めいただいた鈴木先生から、日米欧の無人航空機飛行安全策の基本的な考え方などについてご解説をいただきました。運航毎に安全性を評価するやり方から、性能ベースの基準による機体の安全性認証に民間の標準化団体、メーカー及び当局が関与することにより、運航毎の個別手続から手続を合理化・簡素化する方向で進んでいる点や、我が国における、国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)の研究開発プロジェクトについてご紹介していただきますとともに、今後の課題についてもわかりやすくおまとめをいただきました。

その後、山内所長のコーディネートで、ご視聴いただきました皆様の質問に対する回答という形で、非常に有意義なディスカッションが行われたのではないかと思います。私も頭の整理がよくできたと考えております。山内先生、鈴木先生、藤巻主任研究員、ありがとうございました。

さて、これから、一つお知らせと、一つお願いをさせていただきます。

当研究所では、来る11月28日に、第87回運輸政策セミナー『「物流分野におけるドローンの社会実装」～ドローン物流が当たり前になる時代に向けて～』を開催させていただきます。藤巻主任研究員は、このコロキウムにこれまではワシントンからリモートで参加しておりましたけれども、今回は帰国いたしまして皆様と対面で参加をし、ドローン物流の普及に向けた世界の潮流について発表する予定でございます。ご関心のある皆様はぜひとも、ご参加・ご視聴賜れば幸いです。

最後に、毎度お願いをしておりますけれども、この後皆様にアンケートの送信をさせていただきます。今日のコロキウムの内容でありますとか、今後私どもの研究所で取り上げるテーマなど、お気づきの点、お聞かせ頂ければ大変ありがたく存じます。私どもは皆様からの貴重なご意見を、今後の業務の改善に生かして参りたいと思っておりますので、お時間をとりますけれども、何卒よろしくお願い申し上げます。

以上、簡単ですけれども私からの閉会のご挨拶とさせていただきます。本日はご視聴誠にありがとうございました。

(以上)